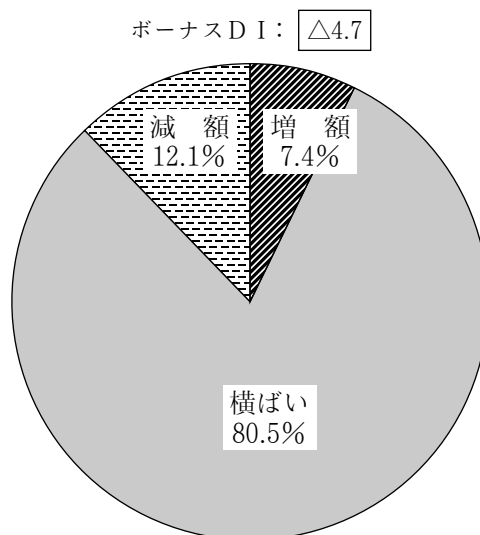


2019. **12**
No. **200**

調査レポート

2019年冬季 県内民間ボーナス支給見通し － ボーナスD Iは2期連続のマイナス －

冬季民間ボーナス支給見通し（全産業）



「第87回県内企業経営動向調査」から

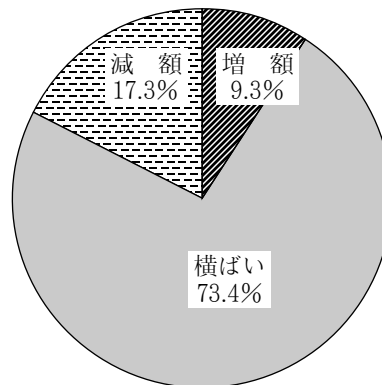
当行の第 87 回県内企業経営動向調査（10 月上旬実施、回答企業 303 社）によると、今冬のボーナス支給予定額は、昨冬の支給額に対して「増額」回答先割合が 7.4%（昨冬調査 8.0%）、「横ばい」回答先割合が 80.5%（同 86.0%）、「減額」回答先割合が 12.1%（同 6.0%）となった。

この結果、冬季のボーナス D I（「増額」回答先割合－「減額」回答先割合）は△4.7 となり、昨冬（2.0）と比べて 6.7 ポイント低下した。冬季としては 7 年ぶり、夏季を合わせれば、今夏に続いて 2 期連続のマイナス（「減額」超）となった。

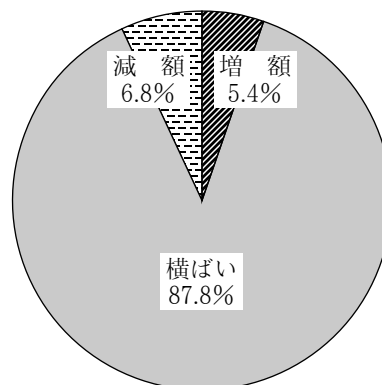
今回実施した企業経営動向調査によると、2019 年度上期の業況は、海外経済減速の影響等を背景に、本県の主力産業である機械工業で悪化の動きが強まったほか、地場産業や非製造業も改善の遅れがみられた。また、2019 年度下期の業況見通しについても、消費税増税等の

冬季民間ボーナス支給見通し

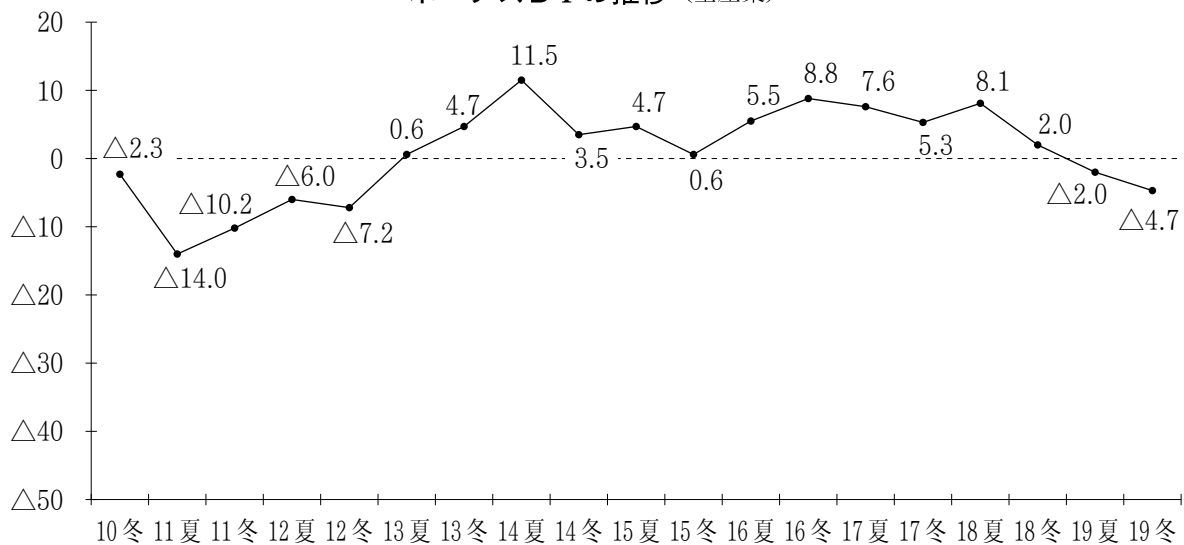
（製造業） ボーナス D I： △8.0



（非製造業） ボーナス D I： △1.4



ボーナス D I の推移（全産業）



●— ボーナス D I（注）

（注）DI =（「増額」回答先割合）－（「減額」回答先割合）

影響が予想されるなかで、外部環境の好転が期待できないとの経営者の判断が窺われ、製造業、非製造業ともに悪化が続くと見込んでいる。

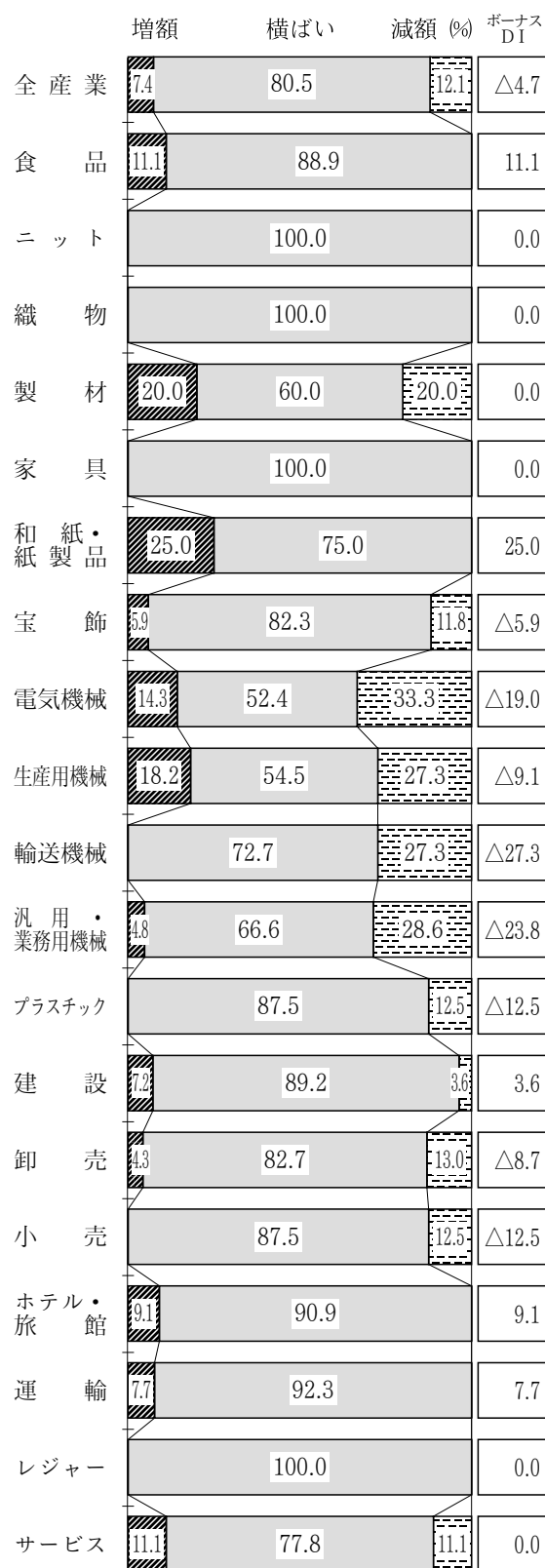
一方、同調査における雇用の充足度をみると、製造業でやや不足感が緩和されているが、非製造業では引き続き人手不足が深刻化しており、経営上の問題点も「労働力不足」、「従業員の高齢化」、「人材・技術不足」が上位を占めるなど、人手不足への対応に苦慮している状況が窺われる。

このように、雇用情勢は依然逼迫している状況が続いているものの、足元の業況悪化や先行きに対する不透明感がボーナス支給見通しに反映されたと考えられる。

業種別にみると、製造業は、「増額」回答先割合が9.3%（昨冬8.4%）、「減額」回答先割合が17.3%（同5.2%）となった。この結果、ボーナスDIは△8.0と、昨冬（3.2）と比べて11.2ポイント低下し、2期連続の「減額」超となった。このうち機械関連では、輸送、汎用・業務用、電気、生産用の全機械で「減額」超となった。その他の業種では、和紙・紙製品、食品が「増額」超となった一方、プラスチック、宝飾は「減額」超となった。

非製造業は、「増額」回答先割合が5.4%（昨冬7.6%）、「減額」回答先割合が6.8%（同6.9%）となった。この結果、ボーナスDIは△1.4と昨冬（0.7）と比べて2.1ポイント低下し、14期ぶりの「減額」超となった。業種別にみると、ホテル・旅館、運輸、建設が「増額」超となった一方、小売、卸売は「減額」超となった。

冬季民間ボーナスの業種別支給見通し



山梨中銀TKC連携ローン

甲斐の三銃士®

担保・保証人不要

最大0.5%優遇

信頼性の
高い財務情報

深度ある事業性の
理解



当行とTKCは連携して、お客さまの成長・経営改善支援に積極的に取り組んでまいります。

ふれあい、さわやか

山梨中央銀行

詳しくは山梨中央銀行の窓口または担当者にお問い合わせください。